

寒高冷地

冬期飼料準備をおこたりなく

一 寒冷地では冬期間の乳量が著しく低下

寒冷地（北海道）での時期別搾乳量をみると、六月から十一月のいわゆる夏期間の六月で年間六〇％の牛乳を生産、残りの冬期六月で四〇％という激減ぶりです。この大きな原因は冬期飼料の不備によることは一般の認めているところで、更には飼料の不備、偏用によつて、受胎が悪かつたり、春先にはケートジスが多かつたり、乳量減産による損害に更にこれら不健康から来る損害が加重され、酪農経営を不利にしております。

今年春から、冬期飼料の確保につとめましょう。

二 冬期飼料としてどんなものを準備すべきか

乳牛一頭当日日量左のものを一応の基準にして、二〇〇日前後の用意が必要でしょう。

種類	数量	備考
エンシレージ	一畝（一畝）	一飼料単位中一〇〇多内外の蛋白質を含む高蛋白質のもの
根菜	一畝内外	固形物の多いビート・ルタバ
乾草	六八キロ	まめ科の混つた若刈乾草

三 栽培にあつて考えたいこと

(一) エンシレージの高蛋白化

●最も理想とすることは、まめ科、いね科牧草の混播草でのエンシレージ製造です。既成の草地は乾草をとるためエンシレージにする牧草畑に余裕のない場合は速成草地として、イタリアンライグラス（〇・五キ）クリムソクローバー（一・〇キ）オーチャードグラス（一・〇キ）赤クローバー（一・〇キ）ラデノクローバー（〇・二五キ）程度の保護作物なしの

混播を早春に行なうことです。札幌附近では七月末に一番刈り、九月上旬に二番刈りが出来、従来の永年草地と交らない収穫ができます。

●玉蜀黍にはまめ科作物を混作すること。

二年性のスイートクローバーをデントコーンと同時期に交互に作つたり、デントコーンの発芽後にその株元に青刈菜豆（サットンスペシル）を二、三粒追播きしますと、収量は二〇〜四〇％増加、蛋白では五〇〜一〇〇％増加が期待できます。

●玉蜀黍の子実のよくとれる一代雑種（ハイブリッドコーン）を利用、秋まで下葉の枯れないよう、株間を広げ一本立とし、遅効性磷酸の溶性燐肥も施用しましょう。

(二) 根菜としてはなるべく家畜ビートの作付を

家畜ビートは嗜好性高く、貯蔵力高く、固形物多く、栄養価も中庸安全、更に多量の葉は高蛋白飼料ですから、エンシレージにしますと、エンシレージの高蛋白化にも役立ちます。

栄養価の高いものとしてはハーフジュガーの系統、つまり、シユガーマンゴールド、耐病系 M・G・M 等がよく、特に耐病系ものは根ばかりでなく、蛋白の高い葉の収量も多く有利です。

(三) 良質乾草

良質乾草とはまめ科牧草の混つた、そして若刈りした消化のよい、蛋白含量の高いものをいいます。

草地を増反し、茎の多い、硬化しやすしい一番草はエンシレージとして加工し、二〜三番草の葉の多い若刈り牧草で乾草をつくるのが理想です。

このためには従来の採草地の赤クローバー、チモシー、オーチャードは耐病性の葉の多い品種（ハミドリなど）を選び、更にラデノクローバーをも少量混播するのが有利です。

飼料作りの手引

どこへいつても

文句なしの家畜ビートの シュガーマンゴールド

一度作つた人は絶対忘れない多収、貯蔵力の強いシュガーマンゴールドは全く勝れた品種ですが、今までは、しばしば品切れで御迷惑をかけたが今春は十分準備ができました。

またそれに輪をかけたような新優良品種が M・G・M です。褐斑病に強く、従つて根の太りもよく、トップが多く、肉質は砂糖ビートのように堅く、貯蔵力があり、そのうえ糖含量が高く家畜は好食し、ケートジスの対策にもなるという品種です。M・G・M は数量に限度あり、お早く、重量の四〜五割が穀穂という

素晴らしいデントコーンエンシレージを作るために

それはデントコーンの一代雑種利用です。驚く程穀穂の割合が多く、栄養価の高いエンシレージができます。発芽から切込みまでの日数で品種を選んで下さい。（札幌附近の場合）

地域	品種	日数
寒地向	複交六号	一〇〇日前後
	複交四号	一〇〇日
	複交七号	一〇〇日
	複交三号	一一〇日
暖地向	複交五号	一一〇日
	複交八号	一一〇日
	長交 二二七	一一〇日
T C	長交 一六一	一一〇日
	長交 一五号	一一〇日

（暖地向ですが、二二七は寒地では白デントコーンに匹敵した生育を見せます）

複交系はいずれも草丈はあまり高くありませんから幾分株数を多くして一〇ア当たり五〜六、〇〇〇株（一本立）とし、また発芽には従来の品種より高温を要しますから一週間くらい晩まきのこと。

長交系は白デントと同様草丈も高く多収です。デントコーンには

必ずまめ科作物の混作を

青刈菜豆サットンや、スイートクローバーの間作、青刈大豆、カウピーの間作等、デントの蛋白不足を補い、併せて地力の低下を防ぎましょう。